

京の大人の英知、注入マガジン

京都CF

(シー・エフ)

BACK ISSUES

お近くの書店でお求めになれない場合、ご希望の
号数と部数をお電話もしくはファックスにてフェイ
ム事務局までお申し込み下さい。在庫の確認をさせ
ていただきます。その後、代金と送料を切手でお送
りいただければ、到着し次第ご送付いたします。
ホームページからもお申し込み頂けます。

こっそり部屋の本棚におきたくなるバックナンバーです。



特集
京都の粉もん
こないなもん

定価350円
(送料100円/1冊の場合)



特集
KYOTO
カフェアルバム

定価350円
(送料100円/1冊の場合)



特集
今夜、
カウンター酒場にて

定価350円
(送料100円/1冊の場合)



特集
おいしす。京都
ラーメン・カレー・お肉

定価500円
(送料108円/1冊の場合)

年間定期購読

1年間の「京都CF」を銀行引き落としにて、
4,200円(内、消費税200円)で予約購読していただ
けます。お電話もしくは巻末ハガキにてご連絡く
ださい。改めてお申し込み用紙をお送りいたします。

フェイム事務局

〒604-8134 京都市中京区六角通烏丸東入ル 大輝六角ビル2F
TEL. 075-256-7558 FAX. 075-256-7557

ホームページからもお申し込み頂けます。

<http://www.kyotocf.com>

POWER PLAYSOUND

Music is moistened our life.
Tasteful album is here.
We'd like to find your recommended one.



master * piece

マスターピース

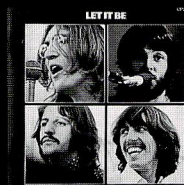
左から稲島一朗(中)、窪田幸一(右)、保利昭彦
(左)、原俊平(右)。00年8月、幼なじみと中学の同窓
生、高校の先輩・後輩と1ヶ月間で結成。05年に1
年間100本に迫るライブを行い、06年5月3日、最新
となる3rdミニアルバム「そら」をドロッポ。6月20
日に「KYOTO MUSE」でライブ予定。
<http://www.g-up.net/mp>



そら / master * piece

Sledgehammer Label
1575円(税込)

「そろそろフルアルバムを出したいですねえ(笑)」という3枚目と
なるミニアルバム。「今まではシンセを入れたりしてたんですけど、
僕と原(G)のギター2本が左右から前へ出る感じですね」。4ピー
スの音源を素直にアビールし、ライブでは勢いではなく、熱さを出
したいという。文字通りこのバンドの現在のマスターピース。



LET IT BE / THE BEATLES

東芝EMI 3008円(税込)

ビートルズが事始めというのは珍しい世代かもしれ
ないが、懐いたのが文化祭の教師バンドである
からもっともか。「RUBBER SOUL」もリスベク
トアルバムのひとつ。なるほど、ジョン・レノン
もまた、懐かしい人である



unplugged / Eric Clapton

輸入盤

ギターの神様に関する思いは、「保健体育の先生
と仲良くなって、ギターを教えてもらううちに
『センスあるよ』と褒められて」経験した先生との
アコースティックデュオ。世知辛い学内ニュース
が多い時代、朗らかさを知るエピソード



U2 / ALL THAT YOU CAN'T LEAVE BEHIND UNIVERSAL INTERNATIONAL 1845円(税込)

「こういう(取材の)話の流れでになるんだったら
『THE JOSHUA TREE』の方が良かったかなあ」とは
言え、先のグラミーも獲ったこのバンドは、冷
たいルックスに込み上げるパッションを持つとい
う意味ではルーツがよく解る

01
Recommended

02
Recommended

03
Recommended

抑えきれない慟哭の心地よさ 朗らかにピースを唄うバンド

横浜の街なかに育ち、一学年が70人ほどという中学校の文化祭
で、教師が組んだバンドを観たのが事始めだった。バンドスタ
イルを貫くのはその原体験からだろうか。特に最新作は4ピース感
が顕著だ。Vo.の窪田幸一は言う。「『(新しいフレーズが)来たっ
』と思ったらスピーカーに携帯を当てて、まずはメンバーに『聴い
てくれや』と。それが4人のアンサンブルでイメージ以上のもの
になる瞬間が最高」。だから今は、自分からこぼれてきた音は出
惜しみにしない。「例えそれが、後から振り返ったら蒙古斑あり
りない幼稚なものでも(笑)」。

文化祭で聴いたのはプロステージ・ロック、教室で流行ってい
たのはMr.Childrenやスピッツ。新旧の音源の進化系とルーツを、
双方から遡ってあれこれ聴き込んだ結果、今の作風が生まれた。
ビートルズやU2、心に残るアルバムを評して「寒い感じでしょ？」
と言う。文字通りの寒さ冷たさではなく、熱い想いを秘めながら
も押し殺そうとするような感じ。だがそのパッションは、結局は
抑えきれずに込み上がる。「自分が唄うと、秋と冬の間みたいな
季節感になって、その季節だからこそ木漏れ日の暖かさを知ると
いうか。暖かきの質が火炎ビンというより『炊き系』? (笑)」。

達観したというか、いい具合に枯れている。このバンドに似合
う言葉を探せば、「慟哭」や「嗚咽」だろうか。その本質は「抑
えられない感情の発露」にある。「泣くことも快樂だ。それも明
日への力になる」と論ずように、暖かいピースが胸を打つ。そ
れができるのは、彼らが朗らかだからだろう。ソリッドにして潤
うギター。寡黙で熱いリズム隊。哀楽を併せ持つバンドである。

「不安って、ひとつ無くなってもまたすぐ次が出てくる。だか
らみんな地団駄踏むけど、そこに向けて唄いたい。心が重くなる
現実がどうでもよくなるように、唄うことで前向きになれる僕ら
から、お土産を持って帰って欲しいという感じですね。エールソ
ングのような派手さはないが、ライブで我々は何をもらって帰れ
るか。6月の入浴を待ちたい」。